

みどりの東北

発行日／平成21年9月
 発行／東北森林管理局
 秋田市中通五丁目9-16
 TEL.018(836)2192

ホームページ <http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/>



大規模地すべり地を防災教育等の活動利用への検討 (詳細は3頁で紹介)

(岩手・宮城内陸地震に係る荒砥沢地すべり対策と大規模地すべりにより出現した地形・景観の活用に関する第1回検討会)



特集

「低コスト作業システム構築に向けて」

販売課

美しい森林づくり

「森林生態系保護地域における

森林の保全管理の推進」

置賜森林管理署

我が署の隠れた名所

津軽白神森林環境保全ふれあいセンター

「くろくまのブナ」



東北森林管理局では、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。

特集コーナー

低コスト作業システム構築に向けて 各地で現地検討会を実施

販売課

【秋田県】

秋田県内の林業関係者が一堂に会した「低コスト木材生産技術現地検討会」が、八月二十五日に由利森林管理署管内を会場に開催されました。

この度の現地検討会は、由利森林管理署が主催し、東北森林管理局の共催で行われ、秋田県由利地域振興局（森づくり推進課）や県内の林業事業体・森林組合、県内各森林管理（支）署から八十三名が参加しました。

開会式では、主催者を代表して池田由利森林管理署長から「森林整備を進めることが地球温暖化防止や再生可能な森林資源の循環利用につながる。そのために現状と将来を見据え、林業の採算性向上に向けた取り組みが重要である」と検討会の開催意義にふれた挨拶がありました。

引き続き第一部として、列状間伐箇所（生産請負）において、事前に作設した作業路の沢部横断工作物の見学や表土ブロック積工法

の実演（北日本索道）が行われ、由利森林管理署及び東北森林管理局担当者からそれぞれ案内と説明を行いました。

午後からは第二部として、会場を鳥海中央公民館へ移し、最初に東北森林管理



多くの関係者が集まった現地での検討会

理局販売課佐々木企画官より、「低コスト路網の考え方」等についての報告。続いて、由利地域振興局森づくり推進課の櫻田主幹より「民有林における間伐促進の取り組み」について報告をいただきました。

意見交換では「路網作設にあたり接着剤としての土の役割」や「民有林における団地集約化の見通し」などについて意見が出され、

今後の取り組みにあたり参考としていくことになりました。

【宮城県】

八月二十七日・二十八日の二日間に亘り、宮城南部／北部流域森林・林業活性化センターと仙台森林管理署の共催による低コスト路網開設研修会を開催しました。

今回の研修会は、宮城南部／北部流域森林・林業活性化センターの会員及び民間林業事業体、宮城県、東北森林管理局、宮城北部森林管理署など、二日間で延べ約一二〇名の参加を得ての開催となりました。

一日目はKKRホテル仙台を会場に、東北森林管理局販売課佐々木企画官から「低コスト路網の考え方」、並びに宮城県森林組合連合会の中鉢総括班長から「低コスト路網開設について」と題し、それぞれ講話をしていただきました。

また、中鉢総括班長からは、森林プラン作成基本マニュアル、地形によるルート計画、ルート選定上の注意事項などの講話も合せていただきました。

二日目は、仙台森林管理署管内で今年度請負事業（保育間伐活用型）実行中の笹谷国有林二三九林班において、谷川横断のための木橋と洗い越し加工の事例、中鉢総括班長の操作による表土ブロック積み工法の実演、高性能林業機械（プロセッサ）による造材の実演を見学していただき、意見交換を

行いました。

現地では事業実行中の北星林業株式会社に、作業は、作業スケジュールの調整や重機のご協力



重機を使用しての実演

現場では講師の方から、〇〇式といった作設方法や考え方はあるが、一つの方式にとらわれることなく、現地の状況に応じて柔軟に対応することが重要であるとの説明がありました。

今回の国有林をフィールドにした低コスト路網研修会を契機として、低コスト路網の普及につなげていただければ、流域管理システムによる民・国連携の取り組みとして有意義なものとなると考えております。

【今後のスケジュール】

岩手県は盛岡森林管理署管内で九月十五日、青森県は下北森林管理署管内で十一月上旬、更に、東北五県を対象にした検討会を山形県で十月十四日に開催する予定です。

多数の関係者のご参加をお願いします。

特集コーナー

岩手・宮城内陸地震に係る荒砥沢地すべり対策と大規模地すべりにより出現した地形・景観の活用に関する検討会を開催

治山課

平成二十年六月十四日、岩手・

宮城内陸地震により発生した荒砥沢地すべりは、斜面の長さ千三百m、幅約九百m、面積約九十八ha、すべり面の最大深度は百mを超えている国内でも最大級の規模であります。

この地すべり対策については、

昨年十二月に「岩手・宮城内陸地震災害に係る山地災害対策検討会」で基本的な考え方をとりまとめ、当面の対策と



して、昨年度から、排水対策、滑落崖の安定化対策、末端ブロックの地すべり対策などが進められています。

一方、荒砥沢地すべりは、他に類をみない滑動形態や、特徴のある地形等を有することから、当面の対策実施後については、現地を防災教育等に利用するなど、今後の活用を踏まえた対策を行う必要があることから、地域関係者や学識経験者等による検討会を設立いたしました。

検討会の委員は、東北学院大学



の宮城豊彦教授を座長（検討会において選任）とし、佐藤栗原市長、金澤耕英地区区長、井良沢岩手大学准教授、中静東北大学大学院教授、松浦森林総合研究所水土保全研究領域長と当局から石井森林整備部長の計七名で構成され、八月四日（火）に第一回の検討会が栗原総合支所で公開にて開催されました。

第一回検討会では、報道関係や一般参加者等の見守る中、現地の詳細な写真（DMC画像）や3D映像を活用しながら、

荒砥沢地すべりの現状について、意見交換が行われ、検討会終了後は、報道関係者を対象として質疑応答が行われました。

午後からは委員等が地すべりの現地視察を行い、滑落崖や陥没帯、湛水池など地すべりで見られる災害現象及び対策工事の確認を行いました。

出席した委員からは、地すべり



で崩れた土砂がどの程度危険かを調べるのが第一であり、安全対策を取った上で、将来は現場を防災教育のために保存・活用していくべきだという方針を申し合わせ、今後さらに検討を進めることとなりました。

この検討会は今後三度開催し、年内には具体的な取りまとめを行う方針です。

第一回検討会の詳細については、局ホームページでも公開しております。

アドレスは

<http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/koho/saigaijoho/kyoku/keintokai/jisuberkentou.html>





森林生態系保護地域における 森林の保全管理の推進

置賜森林管理署

当署管内には、吾妻山周辺、飯豊山周辺、朝日山地の三つの森林生態系保護地域が設定されています。

当署では、吾妻山周辺と飯豊山周辺の森林生態系保護地域について、それぞれの関係者と意見交換の場を設置し、情報の共有、保全活動の検討などを行うとともに、グリーン・サポート・スタッフに

よる巡視活動や、関係者と連携・協力して各種の保全活動を行い、原生的な森林生態系の保全管理に努めています。

1 意見交換の場の設置

吾妻・飯豊の森林生態系保護地域について、学識経験者、山岳関係団体、関係行政機関をメンバーとする意見交換の場をそれぞれ設置し、各団体の取組などについての報告や議論を行い情報の共有に努めるとともに、保全活動等について検討し、合意形成を図っています。



吾妻山周辺の検討会の様子

2 保全活動



弥兵衛平湿原の植生回復事業

吾妻山周辺では、①自然保護団体が行う弥兵衛平湿原の植生回復活動への人的・物的

な支援、
②馬場谷地湿原の長期モニタリング調査、③大凹湿原等への踏み込みを防止する誘導ロープの設置を行っています。

飯豊山周辺では、①山岳関係団体が共同で行う天狗の庭などの植生回復活動への人的・物的な支援、②植物群落内への踏み込み防止啓発看板の設置、②旧キャンプサイトの埋設ゴミの回収、③避難小屋周辺のゴミの回収を行っています。



湿原等への踏み込み防止ロープの設置



天狗の庭植生回復活動

また、グリーン・サポート・スタッフ（森林保護員）による巡視活動を吾妻山周辺及び飯豊山周辺で

行い、山の状況把握、登山者のマナーアップなどに努めるとともに、当署職員による巡視も実施しています。

3 パンフレット・ポスターの配布

それぞれの森林生態系保護地域の指定範囲やマナーなどをまとめた「保全利用ガイド」と「マナー啓発ポスター」を作製し、グリーン・サポート・スタッフの巡視時に登山者に配布、関係施設への掲示を要請し、登山マナーの普及・向上に努めています。



初夏の飯豊連峰

【森のお話】
…コラム…

森林総合研究所 林木育種センター 東北育種場

宮下 久哉

スギの材質を立ったまま測っています

スギ精英樹の材質を調べるため、東北育種場では国有林に設定された試験地（検定林）での調査に取り組んでいます。これまで用材用として求められる木材の材質を調べるためには、伐倒して板等といった試料にまで加工してから日本工業規格等の規格に則った試験に用いなければなりませんでした。しかし、育種分野においては調査の対象系統数が莫大であり、系統間の遺伝的な差異を調べるためには、数千から数万のサンプルを作成しなければなりません。そこで林木育種センターで取り組み始めたのが、簡便的に材質を調べることです。採用した手法は、立木の状態のまま測定する方法で、ヤング率、密度及び含水率の推定を行います。これらの測定方法は、近年木材研究の材質分野で開発・確立されたものです。

立木状態での材質測定

強度との関連が高いヤング率については、ファコップという機器を用い、軸方向の応力波伝播速度を測定してヤング率を推定します。この測定方法の利点としては、立木の段階でヤング率を推定できるので、間伐の際にヤング率が低い木を選択的に伐採することが出来ます。また、収穫の際には林分毎あるいは丸太毎のヤング率を明示することが出来ます。

密度については、ピロディンという機器を用い、ピンの打ち込み量を測定して密度を推定します。密度は材の強度との相関が高いため、地球温暖化防止対策の一つであるカーボンストックにおける重要な因子です。カーボンストックとは、二酸化炭素を吸収固定する樹木を木材として長期間利用することによ

って炭素の貯蔵を行うことです。含水率については、FFTアナライザという機器を用い、横打撃共振法により固有振動数を測定して含水率を推定します。前述の二つの測定方法は、測定値と推定する形質間の関係係数がそれぞれ○・八以上はあるので、相関が高いことから個体毎の推定が可能です。しかし、横打撃共振法では、関係係数が○・六程度あるいはそれ以下となってしまうので個体毎の推定が難しいです。育種の分野においては、系統間の比較までに用いているのが現状です。

材質調査に関する講習会

東北育種場では、二〇〇九年度に、東北育種基本区の育種分野に関連した研究者を対象とした、材質調査に関する講習会を開催しています。これまでに山形県、秋田県及び岩手県に設定された検定林において実施しました。出席者からは、機器の価格、測定方法の特徴及び利点と欠点等数多くの質問を頂き関心が高いことが伺えました。測定自体は難しい方法ではなく、また測定時間も数をこなすにつれ短くなっていくことを実感し

て頂きました。ファコップについては、一時間あたり三十本程度、ピロディン及び横打撃共振法については、一時間あたり六十本程度測定することが可能です。

スギ精英樹の特性評価

スギの場合は未成熟材から成熟材への移行が十五〜二十年生の間にみられます。近年、東北育種基本区に設定されたスギ精英樹の検定林は三十年生に達するものが増えてきました。用材用として求められる材質を調べることが出来る樹齢になったことで、これまでの成長性形質に加えて、今後は材質形質の特性評価を一層進めて参ります。



写真 ファコップ（左）とピロディン（右）の測定の様子



米代西部森林管理署

当署フォレストボランティア
が除草作業を実施

七月十五日（水）米代西部森林管理署管内の市道「風の松原線」において、ボランティアによる除草作業が行われました。風の松原線は能代市内の麒麟ヶ原国有林（風の松原）内にある市道で、旧男鹿街道とも呼ばれる街道跡です。風の松原においては市民の入り込みの多い箇所は市で刈り払いをしていますが、入り込みの少ない箇所については放置されている状況で、幅員4m程の市道が国有林からはみ出した雑草などの堆積物により2m程になっている箇所も

ありました。このことから市道の幅員を十分に生かしてもらい、自転車や歩行者が安心して通行できるようにしようと、初めて除草作業に取り組みました。

当日は梅雨による長雨が途切れはしたものの、どんよりとした空模様の中、参加した九人のボランティアの方々と三名の署員の計十二名で実施しました。

先に道路脇の草を草刈り機で刈り払いしながら進み、その後ろをスコップを使い堆積した松の葉などを道路脇によせていきました。

堆積した松の葉や草は10cmほどの厚さになっており、草の根が這い回っているせいか50m程汗だくになりながら頑張ったものの、予定の二割程しかできませんでした。残

ったところは市からの協力で重機でよせることとなり、参加者も一安心しました



ボランティアの作業により安全な散策路が確保されました

新任者略歴紹介（9月1日付）

山形森林管理署長

井上 康
いの うえ やすし
(北海道)



19・4	14・4	2・4	56・4
四国局安芸署長	北海道局企画課長	熊本局高鍋署長	農林水産省入省

東北森林管理局長

古久保 英嗣
ふる く ぼ えいじ
(大阪府)



20・7	9・10	56・4	55・4
林野庁職員・厚生課長	北海道水産林務部森林計画課長	秋田局新庄署肘折担当区主任	農林水産省入省

た。

一方、草刈りの方は順調に進み予定の九百mを時間内に終わらせることができました。

ボランティアの方々から「久し

ぶりに汗まみれになったが、これで安心して散策できる」という声が聞かれ日頃の手入れの重要性を感じた一日でした。

イ ベ ン ト 情 報

イベント名 「紅葉の葉山で森のふしぎ体験」

期 日 平成21年10月3日（土）
 実施場所 山形県長井市葉山
 募集人員 先着40名程度
 参加対象者 小中学生の親子
 参加費 大人300円、子供200円
 集合場所 飯豊少年自然の家
 （山形県西置賜郡飯豊町大字添川3535-33）
 集合時間 7：30
 その他 昼食は持参してください。



葉山山頂から祝瓶山を望む



葉山山頂の池塘

【参加申込みお問い合わせ】

朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター
 住所：山形県鶴岡市下名川字落合3
 電話：0235-58-1730
 URL：http://www.fureai-kokuyurin.jp/

イベント名 「紅葉の白神山地での藤里駒ヶ岳登山」

期 日 平成21年10月9日（金）
 実施場所 秋田県藤里町 田苗代湿原、藤里駒ヶ岳
 募集人員 20名
 申込締切 9月23日（水）



イベント名 「白神山地での紅葉狩り」

期 日 平成21年10月24日（土）
 実施場所 秋田県藤里町 岳岱、釣瓶落峠、太良峡
 募集人員 20名
 申込締切 10月7日（水）



各イベント共通
 参加費 大人3,500円、子供2,000円（中学生以下）（保険料、記念写真代含む）
 申込み方法 往復はがきに、「イベント名」を明記の上、住所、氏名、年齢、電話番号を記入して、下記までお申し込み下さい。（応募多数の場合は抽選となります）
 その他 昼食は持参してください。

【参加申込みお問い合わせ】

藤里森林センター
 住所：秋田県山本郡藤里町藤琴字大関添24-3
 電話：0185-79-1003
 URL：http://www.shirakami.or.jp/~fujisatofc/



駒ヶ岳山頂から岩木山を望む

イ ベ ン ト 情 報

イベント名 「紅葉の十二湖散策と日本キャニオン」

期 日 平成21年10月24日（土）
 実 施 場 所 青森県深浦町 十二湖
 募 集 人 員 20名
 参 加 費 2,000円（バス代・傷害保険料含む）
 集 合 場 所 青森市沖館1丁目
 （旧青森グリーン会館跡地）
 出 発 時 間 7：00
 そ の 他 昼食は持参してください。



白い岩肌が美しい日本キャニオン



神秘的な湖「青池」

【参加申込みお問い合わせ】

津軽白神森林環境保全ふれあいセンター

住所：青森県西津軽郡鰺ヶ沢町大字米町25-2

電話：0173-72-2931

U R L : <http://www.tugarushirakami-kokuyurin.jp/>

～森の仲間の裏話 6～

へえーそうなんだ

山のカモ

朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター所長 青山 一郎

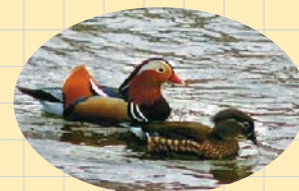
山のカモの代表オシドリ。夫婦仲の良さがたとえられ、実際冬の間は仲の良いペアがよく見られます。

カモ類の雄は番形成には全力を尽くしますが、それも産卵まで。子育ては専ら雌だけの役目。翌年の繁殖期には別の相手と番^{つがい}います。オシドリもご多分に洩^{えんおう}れません。「鴛鴦の契」とは言いますが、実態はちょっと違います。

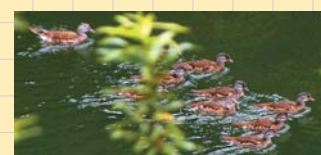
シノリガモも源流域で繁殖する山のカモ。オシドリが樹洞に営巢するのに対して、こちらは溪流近くの地上に営巢するため、入込みの多い所での繁殖は不可能。繁殖地が限定的なのはそんな理由かも。冬は海の荒波の上で見られます。



シノリガモ(2羽ともみ)



オシドリ夫婦



子育て中のシングルマザー(左上)

「森林計画の策定等に関する検討会」 委員を募集します

東北森林管理局では、管内の国有林野の管理経営を計画的に実施するため、森林計画区ごとに地域管理経営計画等を定めていますが、計画策定に当たってより広く国民の皆様の意見を反映するため、今年度から「森林計画の策定等に関する検討会」の委員を国民の皆様から広く募集（募集期間は平成21年9月7日～10月30日）することとしました。

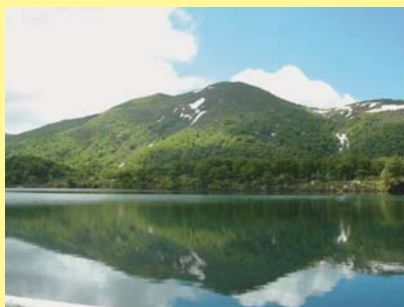
募集人員は1から2名で、任期は任命の日から平成23年3月31日まで。選考された委員の方には、検討会に参加いただき、計画案を審議していただきます。東北5県（福島県を除く）の国有林の森林計画にご興味のある方は、下記にお問い合わせしていただくか、または、**東北森林管理局ホームページ** (<http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/koho/oshirase/iinkobo.html>) をご覧下さい。

今年度、計画を定める森林計画区は、青森県の三八上北森林計画区、岩手県の大槌・気仙川森林計画区、秋田県の雄物川森林計画区及び山形県の最上村山森林計画区の4計画区となっております。

お問合せ先

〒010-8550 秋田市中通5丁目9番16号 東北森林管理局
企画調整室企画調整係 (TEL018-836-2274)

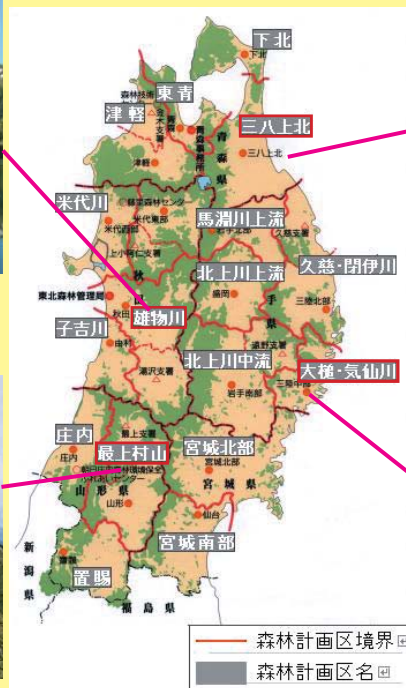
今年度対象の森林計画区



栗駒山・柵ヶ森周辺森林生態系保護地域
(雄物川森林計画区)



鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊
(最上村山森林計画区)



八甲田森林生物遺伝資源保存林
(三八上北森林計画区)



北上高地緑の回廊
(大槌・気仙川森林計画区)

森林官からの投稿は今月お休みいたします。

我が署の 隠れた名所

津軽白神森林環境保全ふれあいセンター

「くろくまのブナ」



（見所の概要）

青森・秋田の県境に位置する白神山地から流れ出る清らかな水は金アユを育み、溪流釣りのシーズンには、全国から多数の釣り人が訪れるので有名な青森県鰯ヶ沢町の赤石川には、日本の滝百選の一つ「くろくまの滝」があります。（みどりの東北50号で紹介）

この駐車場から更に上流へ町道を約300m進み、山側斜面を約30mほど登ったところにブナの巨木が現れます。

このブナ巨木は、白神山地のシンボル「マザーツリー（約4.65m）」よりも太く約5.4mもあり、小高い位置から町道を通る人々を見守るようにそびえております。その姿は威風堂々としながらも優しさが滲み出ており、歴史を感じさせてくれます。

地元では、くろくまの滝周辺の森散策や巨木巡りの一木として親しまれており、私たちは「くろくまのブナ」と呼んでいます。

この他にも白神山地には、多くの巨樹・巨木があります。自然の宝庫白神山地での巨木巡りはいかがですか。

交通アクセス

JR鰯ヶ沢駅から約19km、車で約45分。
くろくまの滝駐車場から町道を約300m、徒歩約5分。



お問い合わせ先

〒038-2754 青森県西津軽郡鰯ヶ沢町大字米町25-2
電話番号：0173-72-2931 FAX：0173-72-2932